

米沢工高専攻科の情報技術コースの学生六人が子育て支援策として、「子供のためのパソコン教室」を軸としたビジネスプランを提案し、事業化を目標に事業計画書の作成などに取り組んでいる。

# 子育て支援 起業に挑む

ビジネスプラン作りを進め、起業に挑戦しているのは情報技術コースの一年生六人。先ごろ、地域課題の解決を図るビジネスプランを支援する県置賜総合支庁の「地域新ビジネス事業化支援事業」に応募、事業化の計画策定費を助成する支援先十件の一つに選ばれた。対象を子供に絞ったパソコン教室や講座の開催、公共施設のＩＴ環境整備など地域に根差した新サービスを提案している。

「自分たちのアイデアが地域活性化につながればいいと思った」と代表の鈴木雅之さん（19）。来月中旬には、事業化に着手する個人、団体を対象

## 米沢工高専攻科生 県の助成受け

# パソコン教室 提案



に、優れたプラン三件以内も審査に向けて、事業内で事業費の二分の一を計画書の作成やプレゼン助成する「事業化支援」セッションの準備などに審査が控えている。六 追われている。

六人にとってビジネスプラン作りは初めての試みで、事業化に向けて収益性など多くの課題も。

今月に入り、福島大共生システム理工学類の樋口良之助教授から週二回ペースで指導を受け、事業の強みや弱みを分析し、収益性などの検討を重ねながら事業計画書の作成やプレゼンテーションの準備を進めている。「アイデアはいいが、もうかる仕組みをたたき上げなくてはいけない」と樋口助教授。

六人は放課後を利用して、準備を進めているが、「専攻科で学んでいる」とを生かし、地域の役に立てたい」とメンバーの中川舞さん（19）。鈴木代表は「初めての挑戦で課題も多いが、審査に勝ち抜けるよう精いっぱい頑張りたいと話していた。

樋口助教授（後列の右端）の指導を受け、ビジネスプラン作りに取り組む米沢工高専攻科の学生ら